

主催者式辞**

小 川 秀 興*1) 2)

本日ここに天皇皇后両陛下のご親臨を仰ぎ、また内外ご来賓各位のご臨席を賜り、日本医学教育歴史館開館披露及び順天堂創立175周年記念式典を開催できますことは、順天堂にとりまして誠に光栄なことであり、私共教職員、そして同窓生にとりまして、大きな慶びでございます。

学祖佐藤泰然が長崎で医学を学び、江戸(日本橋)の葉研堀に医学塾を開設致しましたのは江戸時代の後期、天保9年でありました。天保9年、1838年は、明治維新の30年前であります。

以来、順天堂は教育・診療・研究を絶えることなく続けながら、いまに繋がる日本最古の医育機関として、平成25年、2013年、175年の歴史を刻むことが出来ました。これはひとえに、順天堂を理解してくださる多くの方々の温かいご支援の賜であり、厚く感謝申し上げます。

順天堂は、江戸、明治、大正、昭和、平成と移りゆく時代を、幕末の動乱、明治維新、相次ぐ大戦への参戦、戦後の混乱、その後の経済的繁栄と停滞と共に歩み、175年有余の年月を経て、現在の順天堂大学・大学院大学に至りました。その間、順天堂は日本を代表する医学塾、私立病院として名声をほしいままにした時代もありましたが、同時に経済不況や混乱などを受けながら、幾多の試練を乗り越えて、日本の近代医学教育普及に尽力してきました。

順天堂が江戸から佐倉へ移ったのは幕末動乱の江戸を避けたこと、そして佐倉藩が蘭癖大名の異名を持つ堀田正睦(まさよし)公の領地であり、オランダ医学者・佐藤泰然への期待があったことであろう。

そして、佐倉から東京に移ったのは、明治新政府

が順天堂二代目堂主・佐藤尚中を大典医・大学大博士に命じ、この国の新しい大学教育の指導者として出仕を求めたことにありました。その後、佐藤尚中は明治天皇陛下の御典医を務める一方、大学東校(現東京大学医学部)の初代校長を務め、近代西洋医学教育普及の礎を築きました。大学東校の校長を辞した佐藤尚中は、東京に於ける順天堂の運営の他、済衆舎、済生学舎などの私学の興隆を支えます。

順天堂三代目堂主・佐藤進は、明治2年、1869年、明治政府発行の旅券第1号をもって留学し、アジア人として初めてのベルリン大学医学部の卒業生、そして医学博士となりました。ドイツ・オーストリアの医学・医療をモデルに普仏戦争の実態を視察した経験を生かし、多くの医学生の臨床教育を行い、日本医学の近代化を一挙に推進致しました。

また佐藤進は、順天堂三代目堂主、そして院長を務めながら西南戦役の軍医長、日清・日露両戦争の陸軍軍医総監を務め国難に対峙します。そして順天堂医院の院長を在職のまま、東京大学医学部附属第一医院・第二医院の院長をも務めました。

明治29年、1896年には、看護婦養成所を開設し、日本で初めての看護取締・杉本かねなど、多数の看護師を育成致しました。

順天堂四代目堂主・佐藤達次郎は、大正7年、1918年、東京医学専門学校(現東京医科大学)の設立に初代校長、そして理事長として援助していましたが、昭和に入り、順天堂内の医育機関であった順天堂医事研究会を医学専門学校、そして医科大学へと発展させました。

第二次世界大戦後、順天堂五代目堂主・有山登は、医学部と体育学部とからなる順天堂大学へと発展さ

* 1) 学校法人順天堂理事長

* 2) 医学教育振興財団理事長

** 日本医学教育歴史館開館披露及び順天堂創立175周年記念式典
於：有山登記念館講堂及びセンチュリータワー [Apr. 10, 2014]
[Apr. 25, 2014 原稿受領]

せました。物資もない時代であり、並大抵の苦勞ではありませんでした。

こうした時代を経て、現在順天堂はかつてない規模、即ち医学、スポーツ健康科学、看護学の3つの大学院、そして医学部、スポーツ健康科学部、医療看護学部、保健看護学部の4つの学部、6つの附属病院と発展した姿を示すに至りました。

順天堂の発展にご貢献戴いて参りました内外すべての方々に、深く感謝申し上げます。

さて、第28回日本医学会総会の企画展として「医学教育史展～歴史でみる・日本の医師のつくり方～」が、平成23年、2011年2月～4月、上野・国立科学博物館において開催されました。予想を超える多くの方々が来場され、医療分野だけでなく各方面から高い評価を戴きました。この度、その「医学教育史展」

の内容を保存し、またこれを更に充実したものとして、日本の医学教育の歴史を資料などにより検証できる本邦初の『日本医学教育歴史館』を開館する運びとなりました。医学教育に携わる方々のみならず多くの方々に広く興味を持って戴ける施設になることを願っております。

創立175年にあたり、順天堂は「不断前進」の理念のもとに学是「仁」を大切にしながら、“今、ふたたび「仁」”の理念を掲げ、4学部3研究科6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育・研究・医療を通じて国際レベルでの社会貢献と人材育成に邁進して参ります。

記念式典にあたり、皆さまのご多幸を心より祈念申し上げますと共に、改めてのご指導、ご支援をお願い申し上げます、式辞と致します。